

令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人モン・カルカ学園 緑ヶ丘幼稚園

1. 本園の教育目標

- 子どもひとりひとりの個性を認め寄り添い、客観的に見守りながら成長を促す
- 子どもに関わり過ぎない態度も時に必要とする
- 子どもの発見や発想を大切にし、保護者も子どもと同じ目の高さに立ち、共感することで意欲を高める

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- 本園の教育目標に照らし合わせての保育の実践。環境の変化により計画通りに進まなかった時にも臨機応変に対応し、子どもの成長を促すことを第一に考える

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する)

評価内容	評価	評価の状況や取り組み内容
保育内容と計画 (園の自己評価)	B	感染症の防止に努めながら保育内容を考えて行事も実践した。保育計画が適切だったか、子ども一人一人に寄り添うことができていたか等、見直しが必要である。
安全・衛生管理 (園の自己評価)	B	地域の避難場所となっている上津役市民センターに最も近い園庭の柵に避難扉を設置し、防災に対する設備面での強化を図った。また定期的に防災訓練を行うことで、防災への意識を高めた。
保護者との連携	B	年度の途中で保護者アンケートを実施し、教職員と保護者の間にズレが生じていないか確認した。その中で今後の課題を見出すことができた。

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	評価理由
B	一連のコロナウイルス対策が緩和され、行事をコロナ以前のように全体で行うことができた。その際、子どもの体力や時間配分などにも配慮はしていたが、十分であったかどうか等今後の課題としたい。
課題	取り組み方法
元気な挨拶	○コロナ禍でのマスク生活が影響したのか、元気に挨拶をする子が少なくなったように感じる。コミュニケーションの基本となる挨拶が定着できるように取り組んでいく。 ○絵本の読み聞かせを通し、言葉の発達や想像力と豊かな感性を育む。保育中だけでなく、家庭でも絵本に触れ合う機会を増やし育んで行けるよう発信していく。

評価委員 江口 徹

評価委員 古賀 和博

評価委員 白崎 伊代

評価委員 大内 昭人